

指導の形態	自立活動「話すこと」 ～順序よく話すための指導～	障がい種	注意欠陥多動性障がい (ADHD)
-------	-----------------------------	------	----------------------

授業の概要やよさ

- ・1時間の活動の仕組みや働きかけを工夫する。
- ・話し方を手がかりにしたり、順番にカードを手に取りながら話すことで、安心して取り組めるようにする。

児童生徒の様子

- 小学校3年生
 - ・興味のあることについては集中できるが、関心のないことについてはぼんやりしていることが多い。
 - ・考えの相違や予想外の事柄に対しては、自分の考えに固執することがあり、子ども同士のトラブルになることも多い。
 - ・自分の伝えたいことを一方的に話し続けることがある。また、話していると内容にズレが出てきて、会話が成り立たなくなることもある。

目標

- 自立活動
 - ・席について、見通しを持って最後まで課題に取り組むことができる。
 - ・話し方カードを使って、順序よく話すことができる。

支援のポイント

○活動の見通しを持って、意欲的に活動できるように自分でプランを立てる。

○今日の気ぶんでの話し方をシートやカードで示したり、困った時はヒントを出したりしながら考えさせ、安心して話せるようにする。

○話す時に、話し方のシートを見たり、順番カードを手にとって自分の考えを話したりする動作を伴わせることで、順番に考えながら話すことができるようにする。

A児が自分の話し方にもどった時は、ストップカードを見せ、話を一度止めて落ち着いてから続ける。

○活動の仕組みを固定化する。

①今日の気ぶん～ここは固定し、話し方の練習

②

③

④リラックスタイム

*いくつかの課題を準備
A児が選択して決める。

○話し方のパターンを固定化し、練習する。

☆今日の気ぶンは、です。

そのわけは、(①いつ ②どこで ③だれが ④何をした ⑤くわしく ⑥思ったこと) からです。

「今日の気ぶん」お話シート

☆今日の気分は、です。

そのわけは、

①いつ ②どこで ③だれが ④何をした ⑤くわしく ⑥思ったこと

からです。

話の内容が、相手に分かるようにするため項目を示す。

その項目をカードにし、手を取りながら、順番に話せるようにする。

